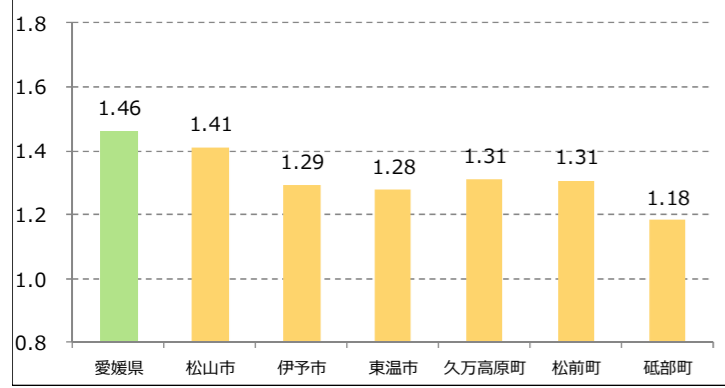




合計特殊出生率 (2012~16年平均)

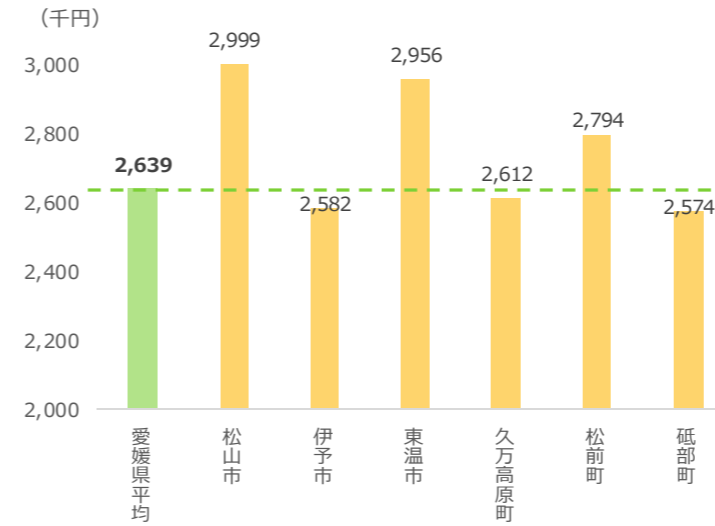


年齢階級別出生率 (女性人口千対)

	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳
愛媛県	5.4	39.9	97.3	95.8	45.5	8.3	0.2
松山市	5.1	34.5	89.6	94.6	46.8	8.8	0.2
伊予市	4.9	33.7	88.8	93.7	46.3	8.8	0.2
東温市	4.9	33.5	88.6	93.8	46.4	8.8	0.2
久万高原町	5.0	33.9	89.0	93.9	46.5	8.8	0.2
松前町	5.1	33.8	88.7	93.8	46.5	8.8	0.2
砥部町	5.0	33.8	88.5	93.7	46.2	8.8	0.2

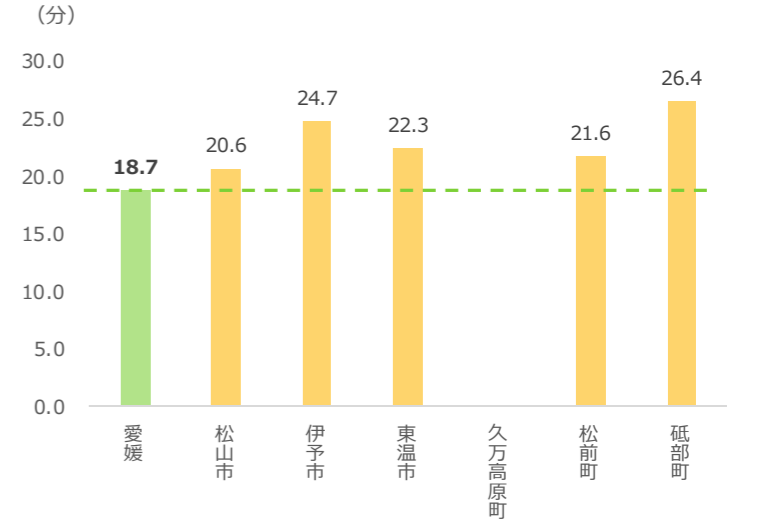
- 合計特殊出生率はすべての市町で県平均を下回っている。
- 15~19歳、20~24歳、25~29歳、30~34歳までの各年齢階級別出生率は県の平均よりも低い一方、35~39歳、40~44歳では県平均より高く、晩産化している様子が如実にあらわれている。
- 中予地域は人口の多い松山市のベッドタウンとしての強みがある。各市町の特徴を生かした施策とともに、市町間の連携が重要となろう。3市3町が連携することで住みやすく子育てしやすい地域になれば、出生率の向上につながるのではないかと。

課税所得



資料：総務省 平成27年度「市町村課税状況等調」

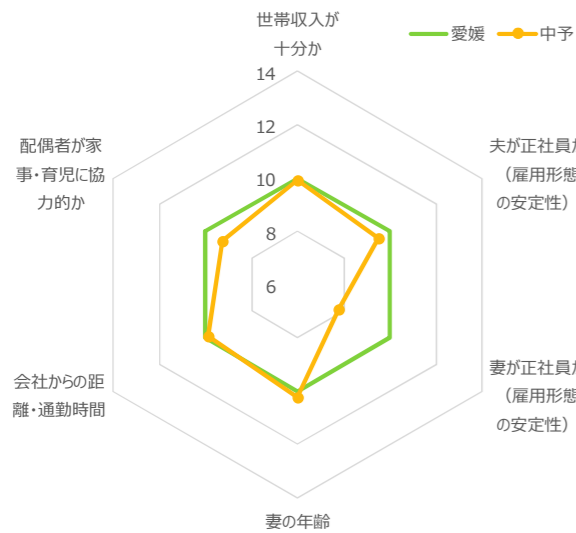
通勤時間



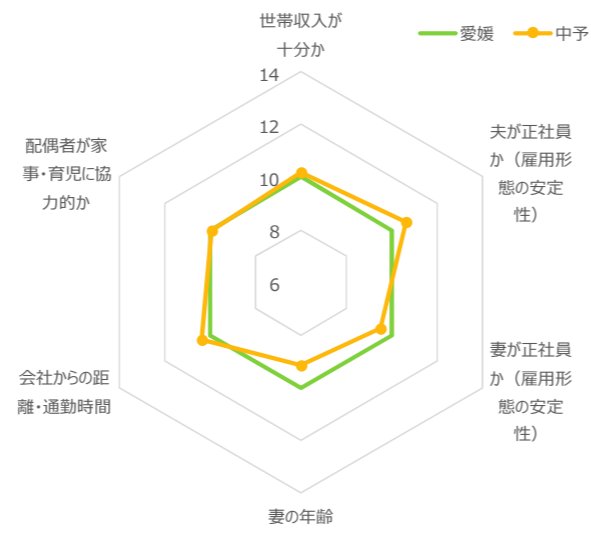
資料：総務省 平成25年「住宅・土地統計調査」

子どもを産むときに重視したこと (アンケート結果)

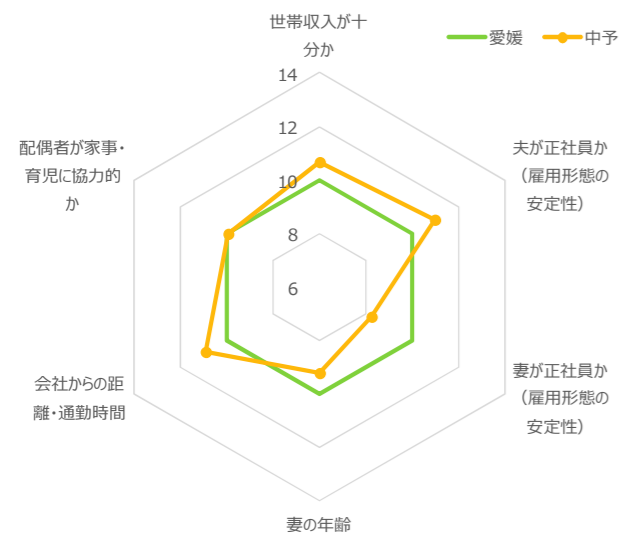
子どもが1人の人が産むときに重視したこと (中予)



子どもが2人の人が産むときに重視したこと



子どもが3人以上いる人が産むときに重視したこと



アンケートにみる中予の特徴

「世帯収入」…課税所得は市町によって差があるが、3市町が平均を上回っており、子どもが1人の人、2人の人はさほど重視しない傾向

「夫が正社員」…男性の正規従業員割合は県平均よりも下回っているためか、子どもが2人の人、3人以上の人は重視する傾向にある

「妻が正社員」…全体的に重視する傾向にはない。女性の正規従業員割合も県平均を下回っており、中予では正規従業員かどうかは出生率にあまり影響しないように見受けられる

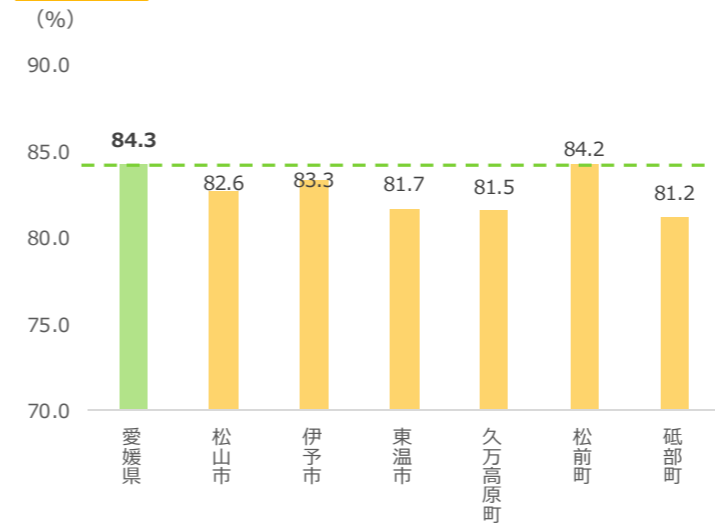
「妻の年齢」…平均出産年齢は概ね県平均を上回っているが、全体的に年齢を重視する傾向にはない。

「通勤距離・時間」…松山中心部に通勤する人が多いためか、通勤時間は比較的長く、子どもが多いほど重視する。

「配偶者の家事・育児協力」…特に重視する傾向はない

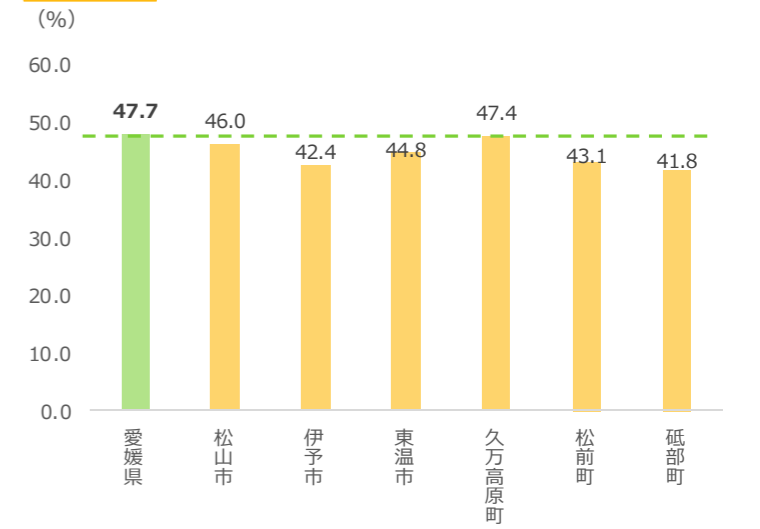
正規従業員割合

男性



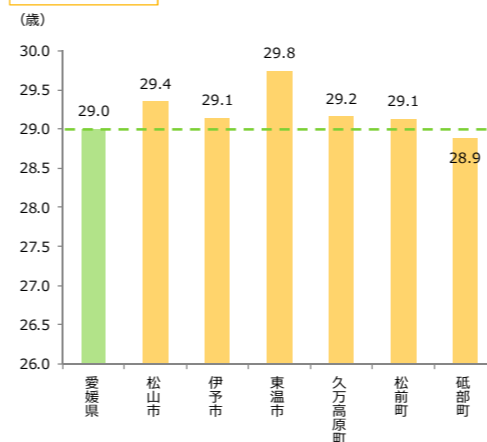
資料：総務省 平成27年「国勢調査」

女性

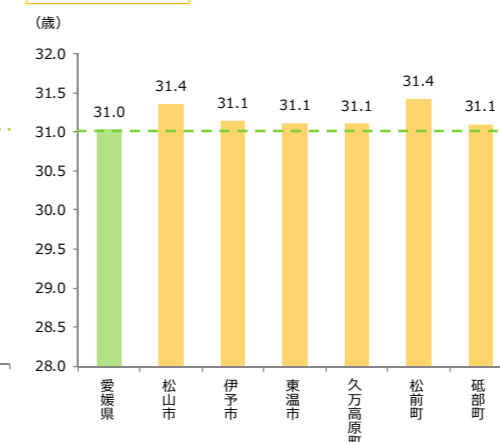


第1子・第2子・第3子以上の母親の平均出産年齢 (2012~16年平均)

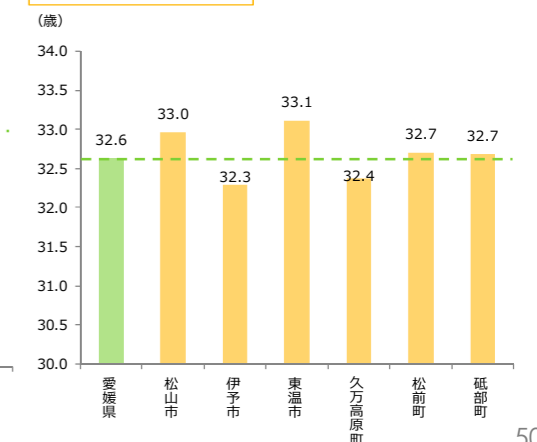
第1子



第2子



第3子以上





松山市

- 合計特殊出生率は県平均を0.05下回り、県内では12位となっている。
- グラフ3「①年齢階級別女性有配偶率」をみると、すべての年齢階級で県平均を下回っている。
- 右ページ「人口」をみると、20～39歳の各女性人口が男性人口を上回っている。また、15～24歳の男性の流出数が女性を上回っている。
- グラフ2「有配偶出生率の推移」をみると、県平均を上回っている。
- また、グラフ3「②出生順位別の有配偶出生率」をみると、第1子、第2子で県平均より高い。結婚すれば子どもは産まれる傾向であり、子育て支援もプラスに働いていると言えるのではないかと。一方、第3子以降の有配偶出生率は県平均を下回っている。婚姻年齢の引き下げが、第3子以降の出生率の向上に結びつく可能性が高い。

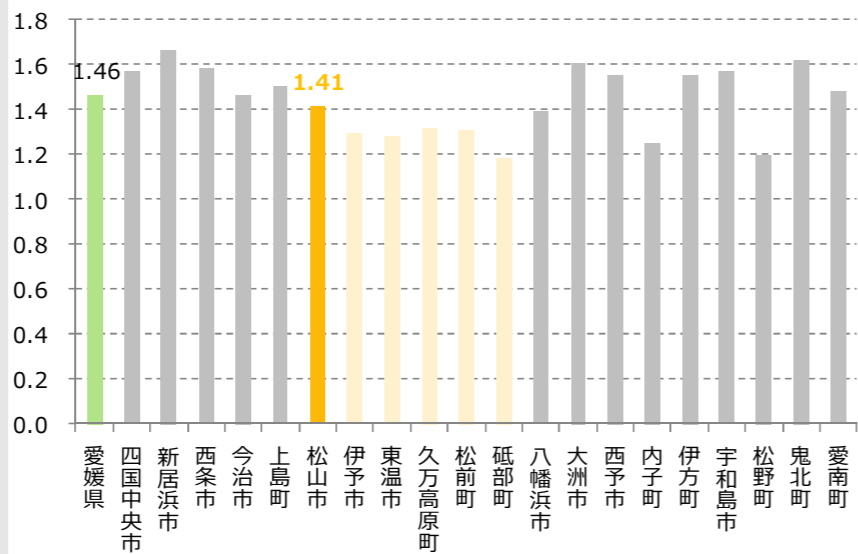
合計特殊出生率
(2012～2016年平均)

1.41

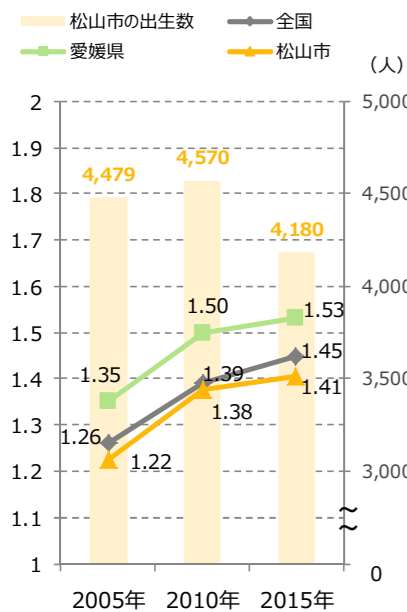
愛媛県との差 -0.05/12位

ベイズ推定値

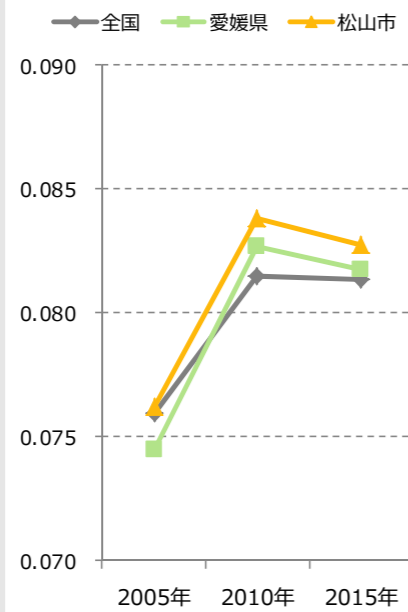
1.40



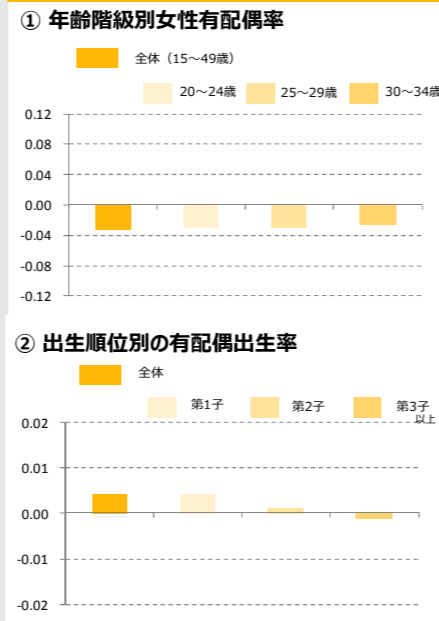
1. 合計特殊出生率の推移 (ベイズ推定値)



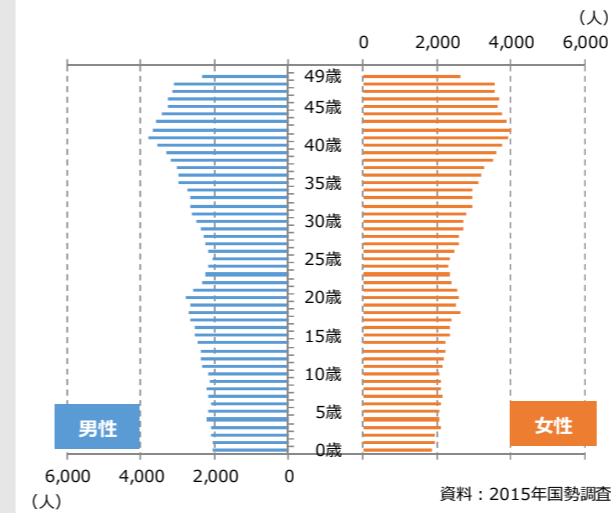
2. 有配偶出生率の推移 (ベイズ推定値)



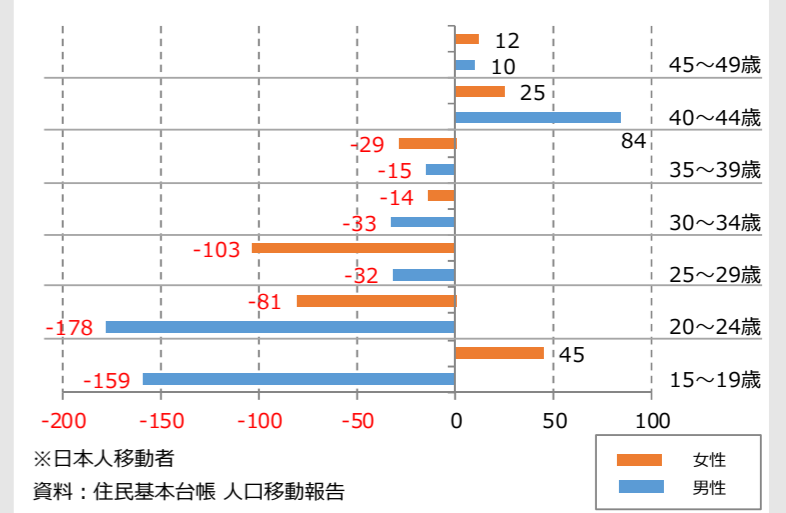
3. 愛媛県との差



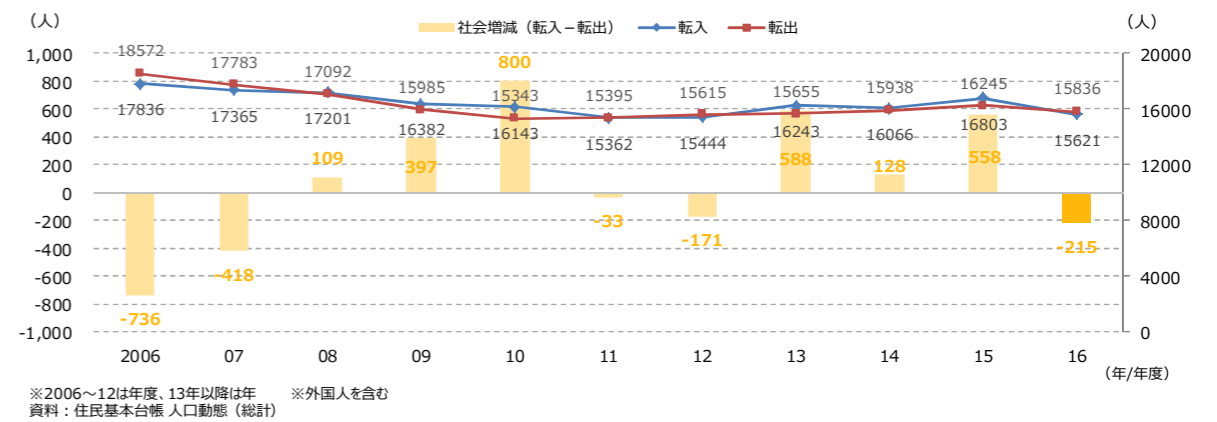
■人口



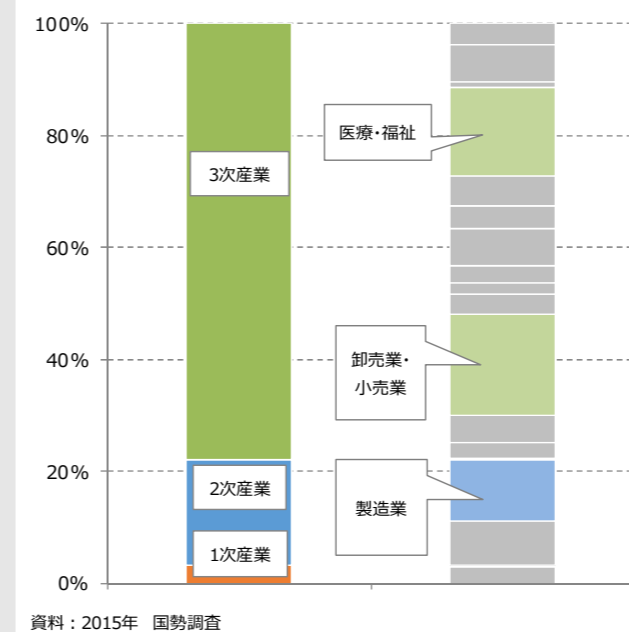
■年齢、男女別社会増減 (2017年)



■社会増減推移



■産業別従事者



■コラム

市民の声から誕生した「子育てひろば ToiToiToi」



「子育てひろば ToiToiToi」は、市民メンバーが主体となり、市の職員と学習や調査、話し合いを重ねて市長に提言を行う「笑顔のまつやま わがまち工房」の「こども館にひろばをつくらう」という提言を受けて実現した。

松山市は、サービス業などの第3次産業従事者が多く、休日も働く父母が多いため、このひろばは土日も開いている。平日、休日に関わらずさまざまな親子が集い、交流し、悩みを相談できる場となっている。



※ToiToiToi はドイツ語で「うまくいきますように」など相手の成功や幸せを祈るときのおまじないの言葉



伊予市

- 合計特殊出生率は県平均を0.17下回り、県内では16位となっている。
- グラフ3「①年齢階級別女性有配偶率」をみると、すべての年齢階級で女性有配偶率が県平均を下回っている。
- グラフ3「②出生順位別の有配偶出生率」では、全体の有配偶出生率は県平均を下回っているが、第3子の有配偶出生率は県平均を上回っている。
- P.50「第1子・第2子・第3子以上の母親の平均出産年齢」をみると、第3子の平均出産年齢が県平均を下回っている。
- P.50「通勤時間」は県平均を上回っている。これは松山市等市外への通勤が多いことが一因と言える。JR、私鉄、高速道路ともにアクセスが良く、通勤・通学の利便性向上とあわせて子育て環境の整備を進めることが、出生率の向上に結びつくのではないかと。

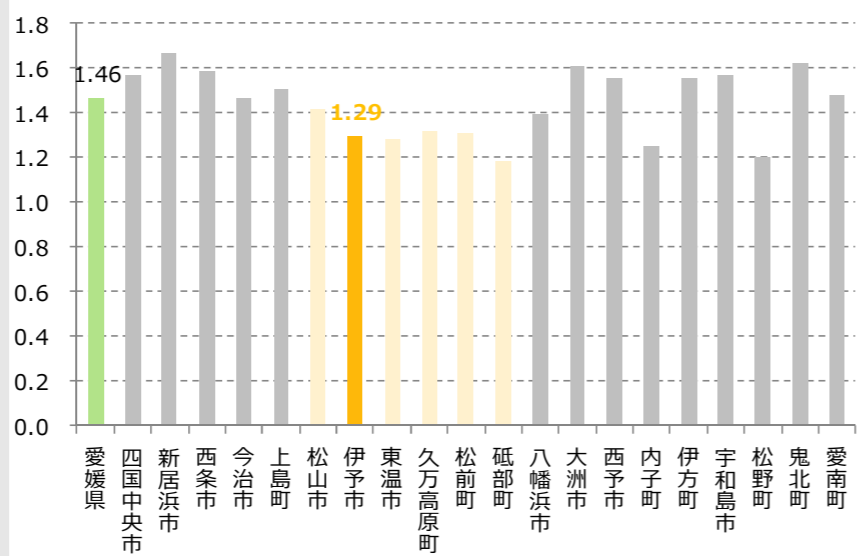
合計特殊出生率
(2012～2016年平均)

1.29

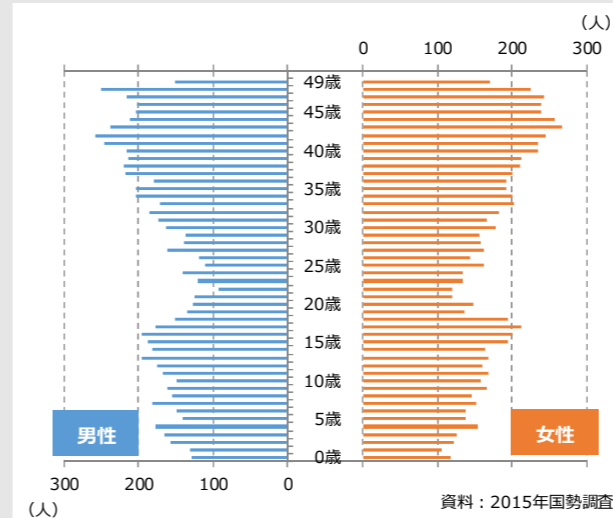
愛媛県との差 -0.17/16位

バイズ推定値

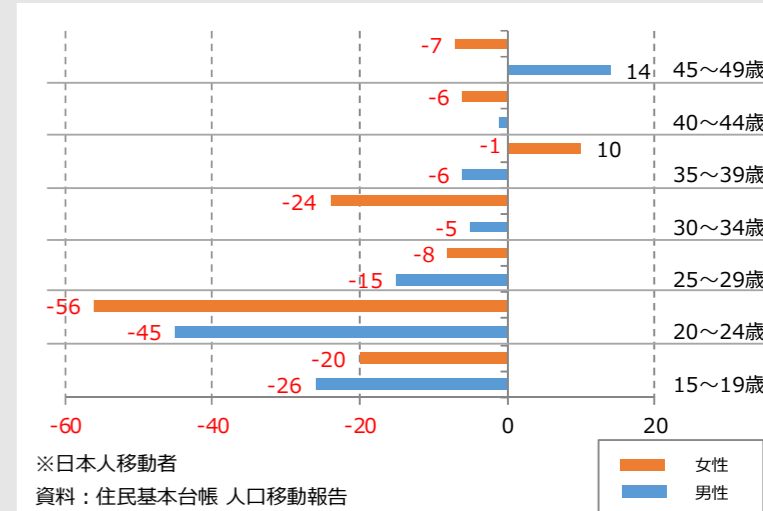
1.38



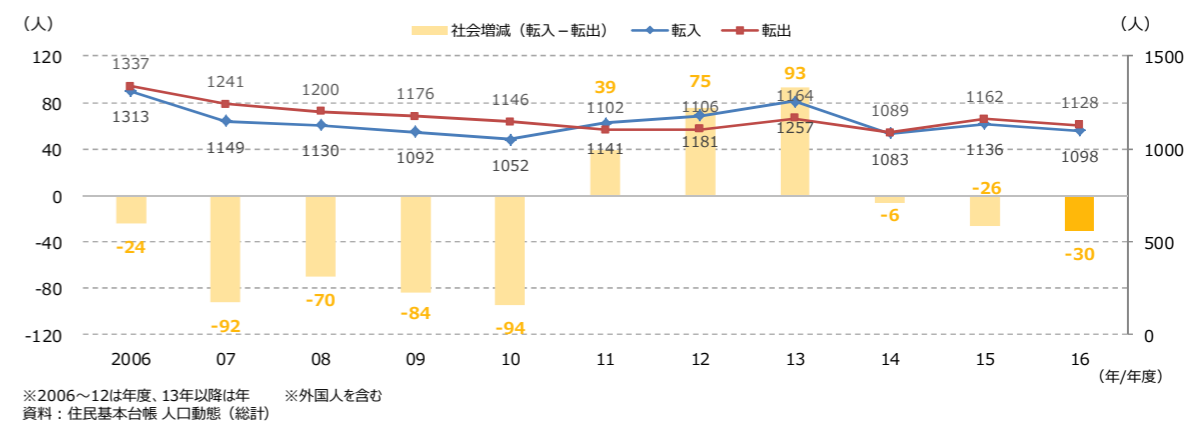
■人口



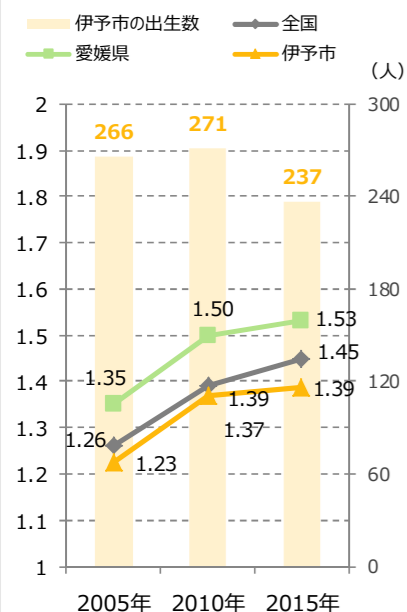
■年齢、男女別社会増減（2017年）



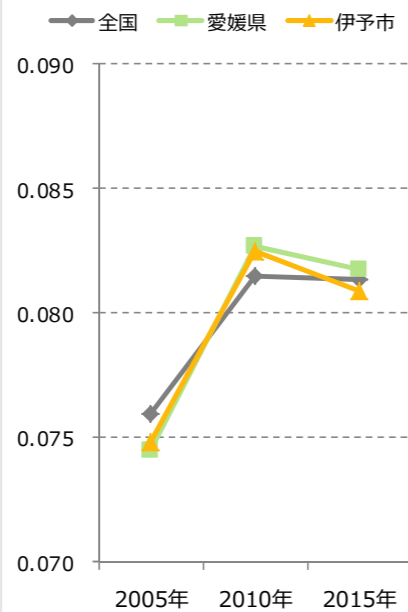
■社会増減推移



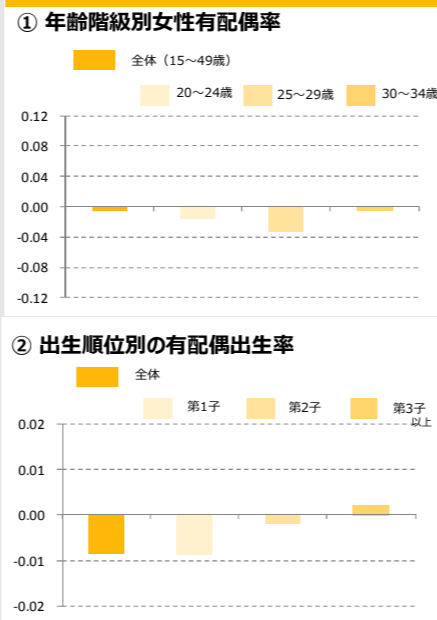
1. 合計特殊出生率の推移 (バイズ推定値)



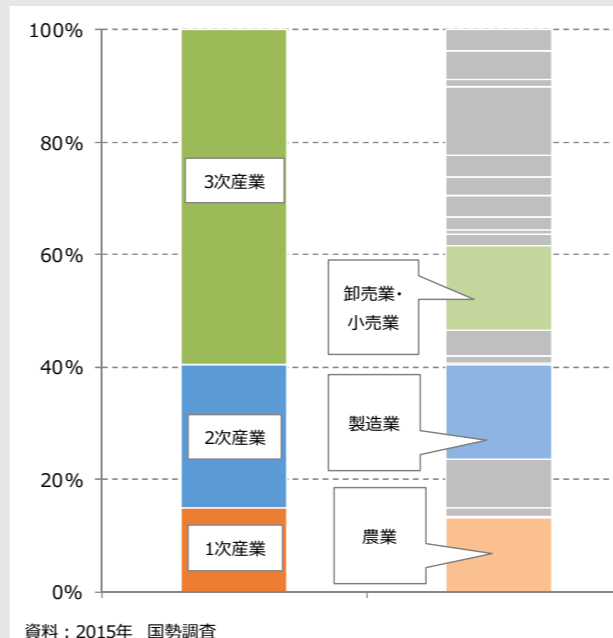
2. 有配偶出生率の推移 (バイズ推定値)



3. 愛媛県との差



■産業別従事者



■コラム

一人ひとりの妊娠・出産・子育てを支援する。

伊予市は、29年4月に「母子健康包括支援センター」を開設し、母子保健コーディネーターが多様なニーズへの総合的相談支援を行っている。また、出産前から、家事の援助を受けられない家庭にヘルパーが訪問しサポートをする「子育て支援ヘルパー派遣事業」も行っている。

市内の放課後児童クラブは19:00まで開設しており、近隣市町への通勤者も安心して子育てできる環境を整備。

なお、病児・病後児保育施設である「いよこすまいる」では、全国で一番にお迎えサービスを開始。あらかじめ登録しておけば、保護者に代わってスタッフが保育所等へお迎えに行き、市内の小児科を受診させるなど機動的に対応している。





東温市

- 合計特殊出生率は県平均を0.18下回り、県内で17位となっている。
- グラフ3「①年齢階級別女性有配偶率」をみると、すべての年齢階級で女性有配偶率が県平均を下回っている。
- グラフ3「②出生順位別の有配偶出生率」も、全体的に低い。
- P.50「第1子・第2子・第3子以上の母親の平均出産年齢」をみると、特に第1子の平均出産年齢が高い。
- 幹線道路や私鉄のアクセスが良く、県内で唯一の大学病院を有する一方で自然も多いという、まちなか中山間地域の“いいところ”ができる住環境を強みとすれば、松山市の通勤圏かつ子育てしやすいまちとしてより認知されるのではないかと。

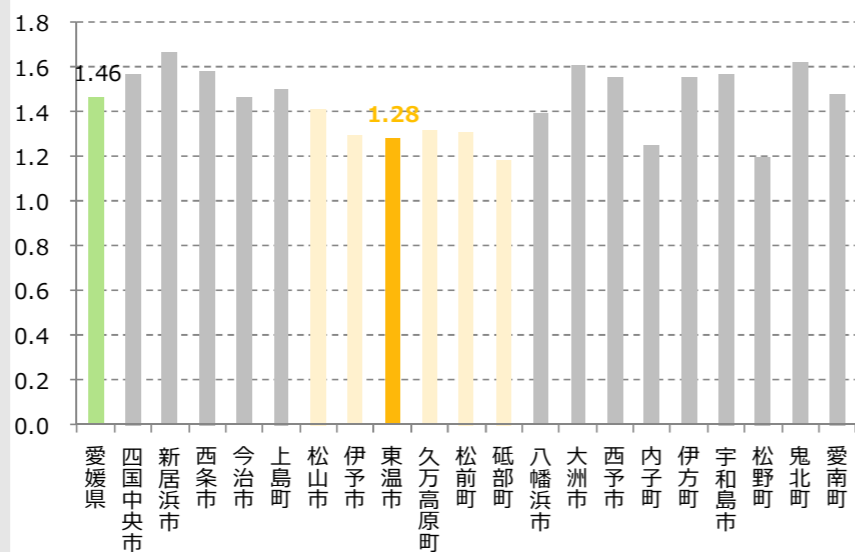
合計特殊出生率
(2012～2016年平均)

1.28

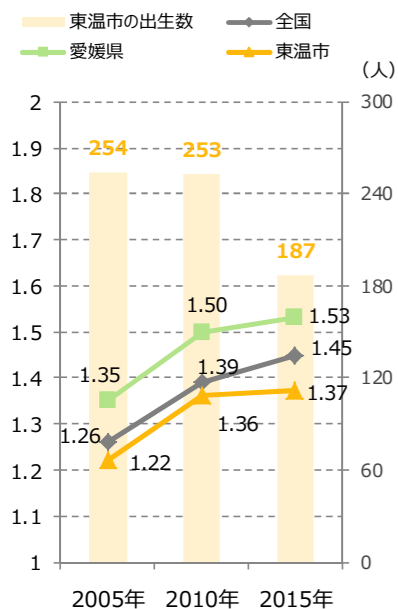
愛媛県との差 -0.18/17位

ベイズ推定値

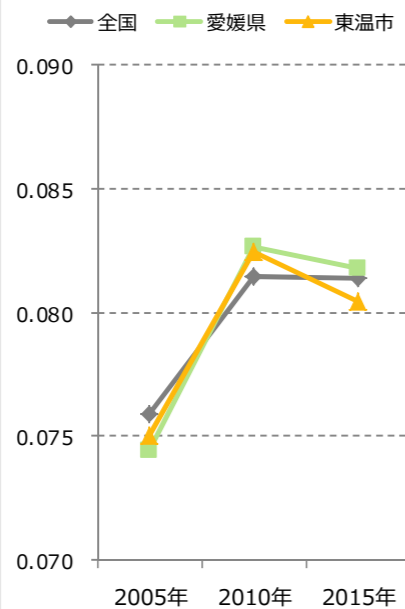
1.38



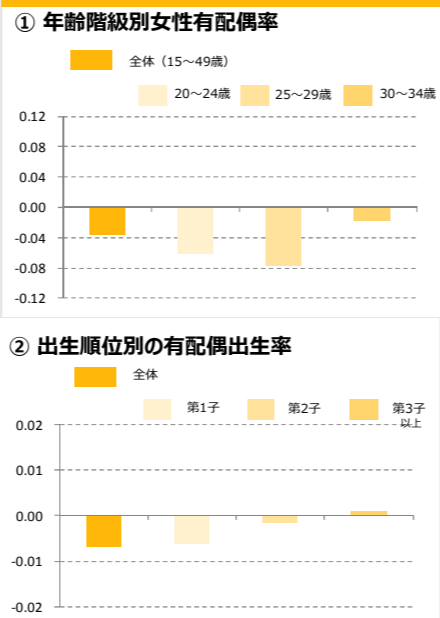
1. 合計特殊出生率の推移 (ベイズ推定値)



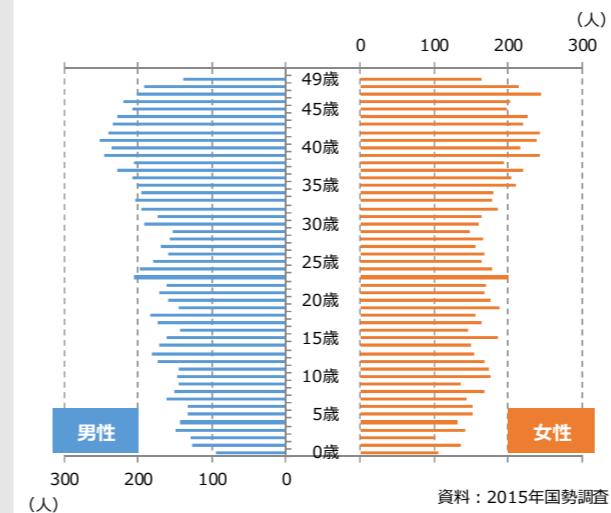
2. 有配偶出生率の推移 (ベイズ推定値)



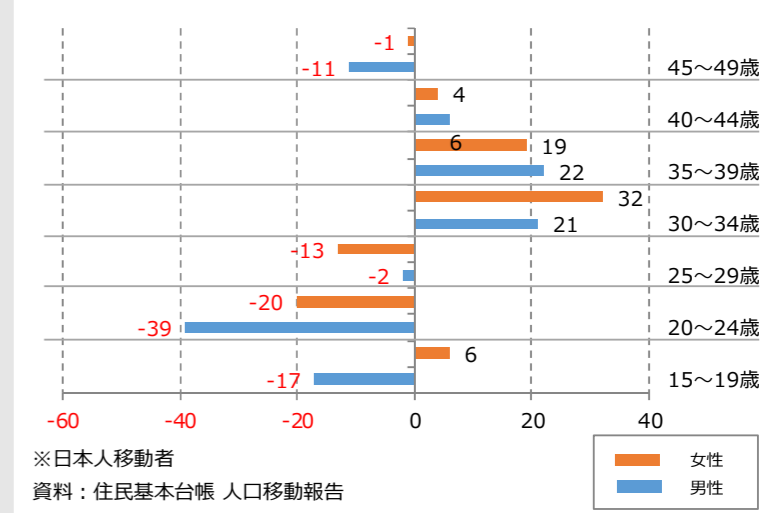
3. 愛媛県との差



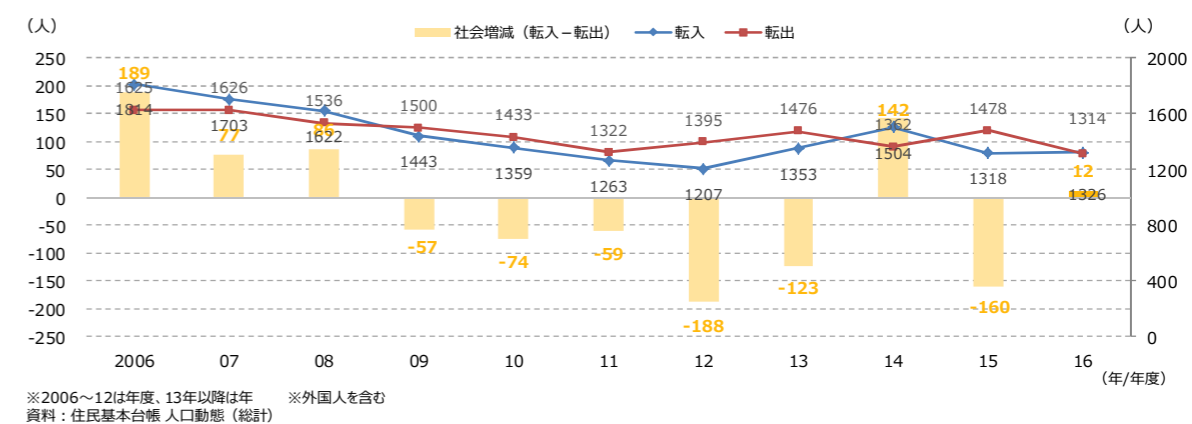
■人口



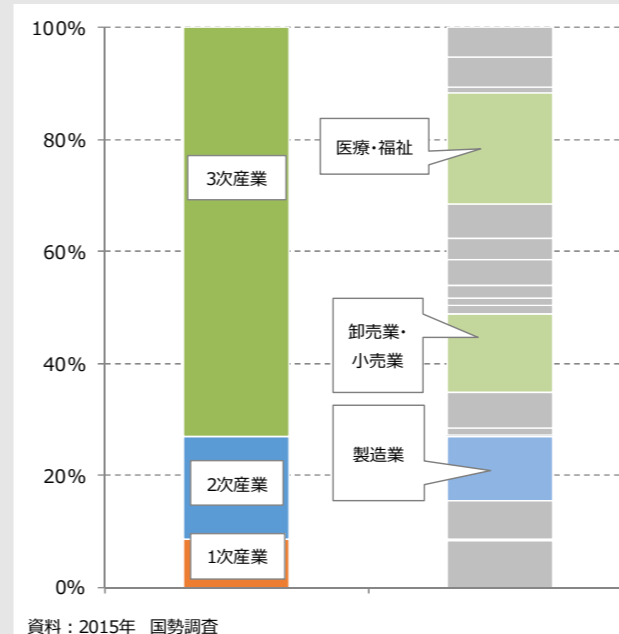
■年齢、男女別社会増減 (2017年)



■社会増減推移



■産業別従事者



■子ども・子育て支援事業計画

●● 基本理念 ●●

緑あふれる東温で 子どもの笑顔をさかせよう

●● 基本目標 ●●

- 1 乳幼児期の教育・保育の充実
- 2 地域における子育ての支援
- 3 母性と乳幼児等の健康の確保及び増進
- 4 子どもの心身の健やかな成長に向けた教育環境の整備
- 5 子育てを支援する生活環境の整備
- 6 仕事と家庭生活との両立の推進
- 7 子どもの安全の確保
- 8 専門的な知識及び技術を要する支援の推進



久万高原町

- 合計特殊出生率は県平均を 0.15 下回り、県内では 14 位である。
- グラフ 3「①年齢階級別女性有配偶率」は、どの年齢階級においても県平均より高い。
- 一方、グラフ 3「②出生順位別の有配偶出生率」は、第 1 子、第 2 子、第 3 子ともに県平均よりも低くなっている。
- 全体の有配偶率が高いものの、全体の有配偶出生率が低い状況は、若年女性人口の急激な減少が反映しているものとみられる。
- 中予のなかでは最も山間部のため、他市町への通勤・通学も不便であり、若い層は進学・就職・結婚などをきっかけに町を出る傾向が強い。町に残る人が増えるよう、住宅や子育てへの取り組みが必要だろう。

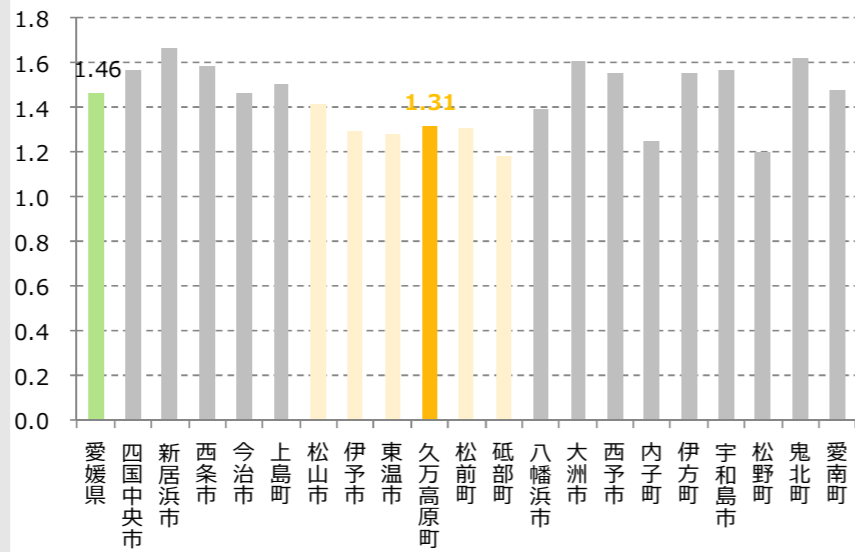
合計特殊出生率
(2012～2016 年平均)

1.31

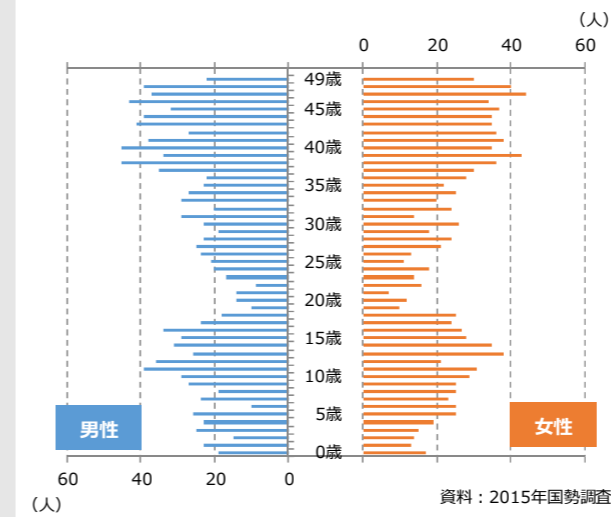
愛媛県との差 -0.15/14 位

バイズ推定値

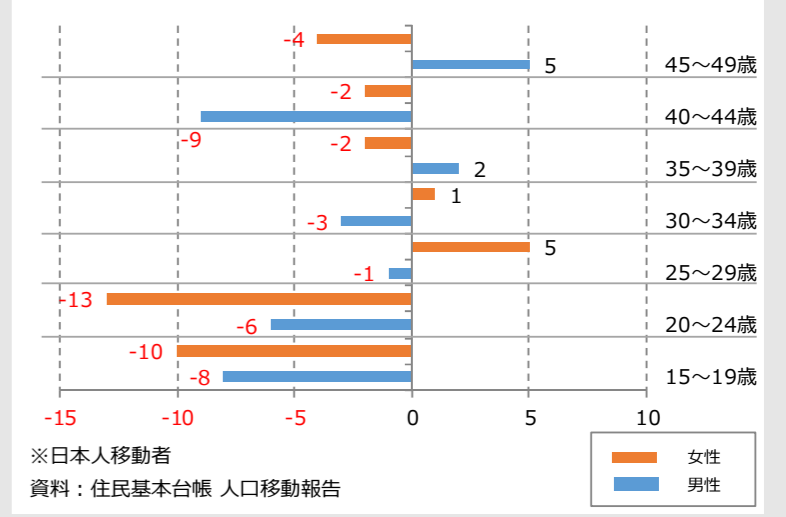
1.39



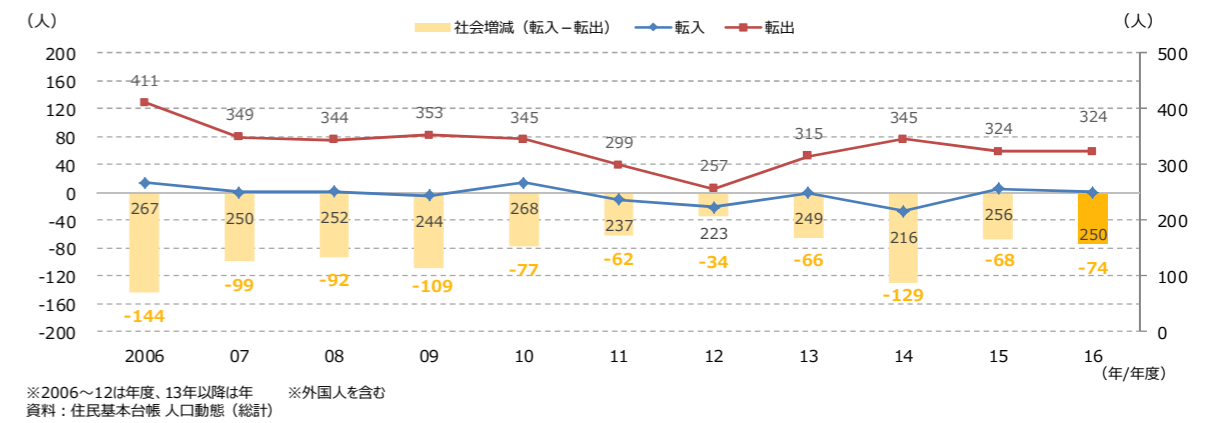
■人口



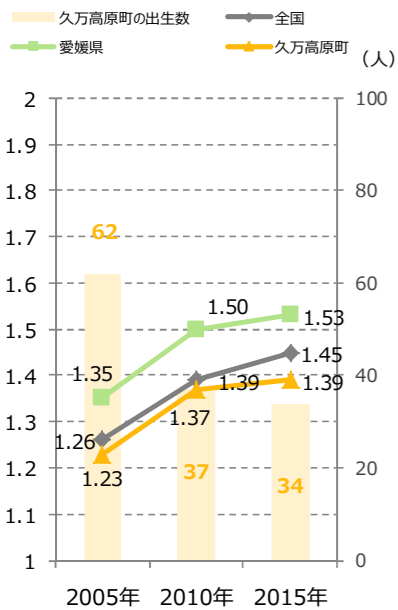
■年齢、男女別社会増減（2017年）



■社会増減推移



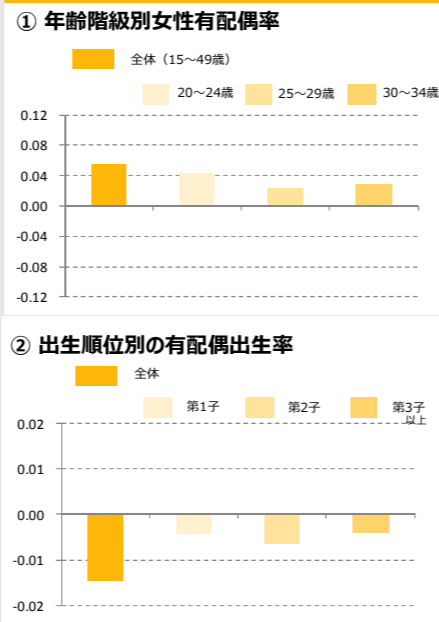
1. 合計特殊出生率の推移 (バイズ推定値)



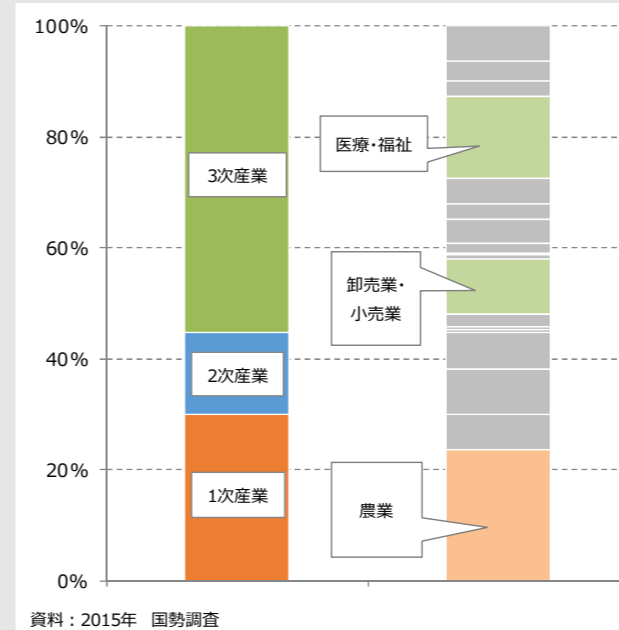
2. 有配偶出生率の推移 (バイズ推定値)



3. 愛媛県との差



■産業別従事者



■子ども・子育て支援事業計画

●● 基本理念 ●●

地域でのふれあいから
みんなが輝く ひとつづくり

●● 基本方針 ●●

- 1 子どもと子育て家庭への支援
- 2 地域の子育て支援力の強化
- 3 子どもの教育の充実
- 4 安全で安心な生活環境の整備
- 5 子育てを支援する生活環境の整備



松前町

- 合計特殊出生率は県平均を0.15下回り、久万高原町と並んで県内14位となっている。
- グラフ3「①年齢階級別女性有配偶率」をみると、20～24歳、25～29歳の年齢階級別女性配偶率は県平均を下回っている。
- 右ページの「年齢、男女別社会増減」をみると、30～34歳で増加が多く、子育て世代の転入者も一定数あると見込まれる。
- P.50「第1子・第2子・第3子の母親の平均出産年齢」をみると、中予の他市町と同様、母親の平均出産年齢が高くなっており、晩産化の傾向がみられる。
- P.50「通勤時間」をみると、県平均は上回っているものの、中予の他市町は下回っており、通勤圏としての優位性がある。

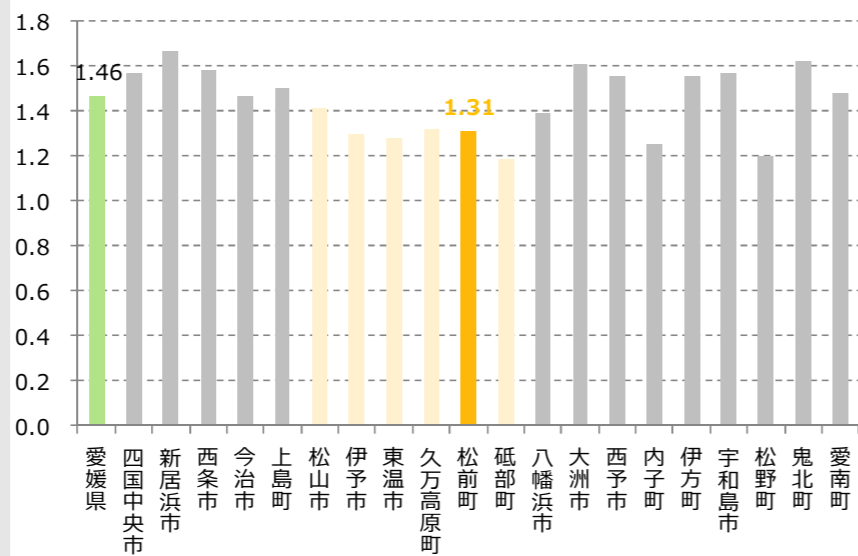
合計特殊出生率
(2012～2016年平均)

1.31

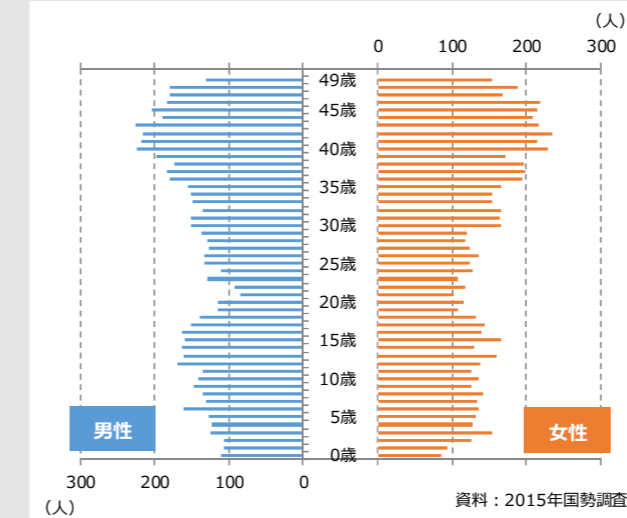
愛媛県との差 -0.15/14位

ベイズ推定値

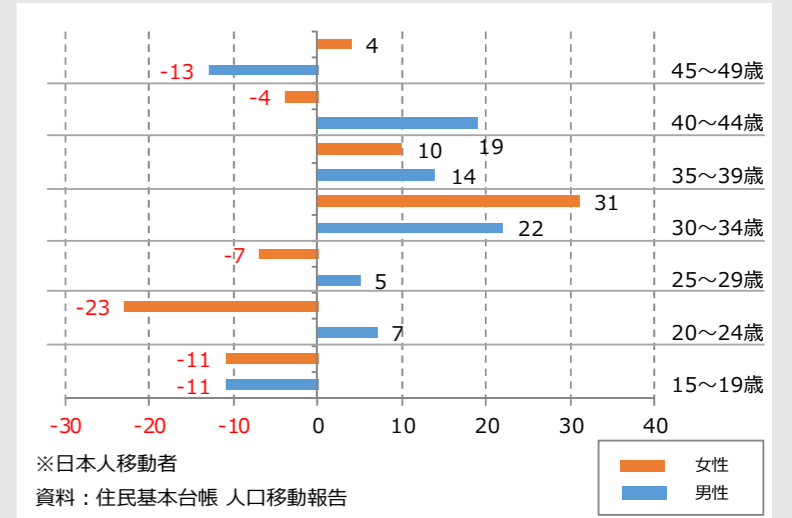
1.38



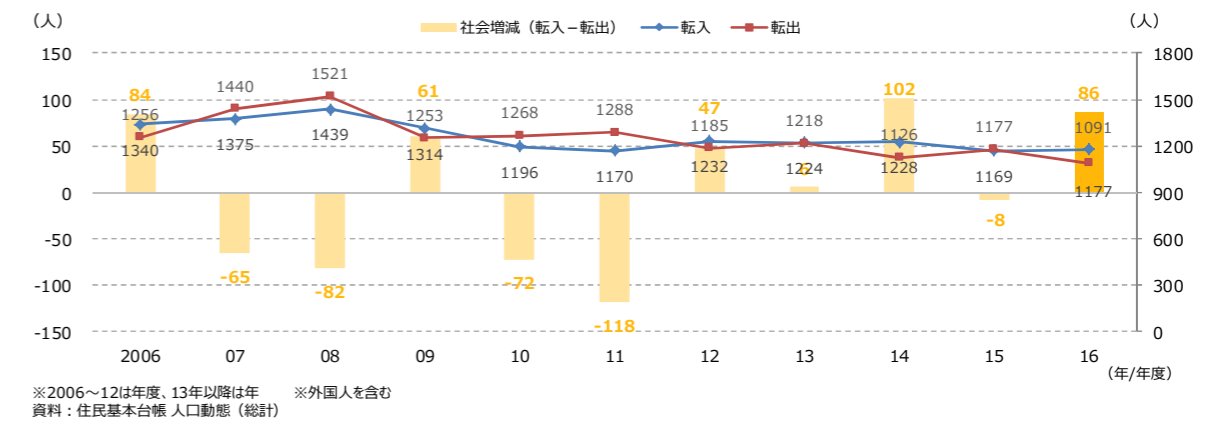
■人口



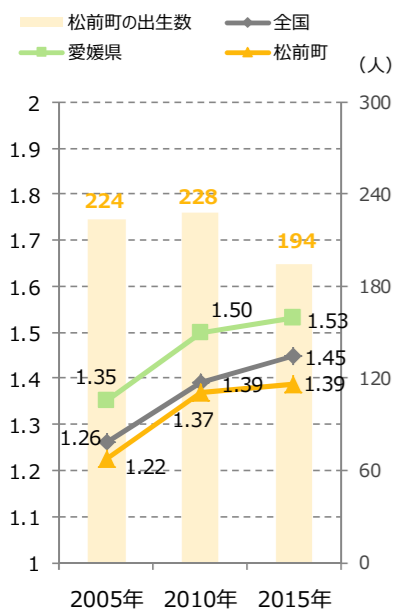
■年齢、男女別社会増減（2017年）



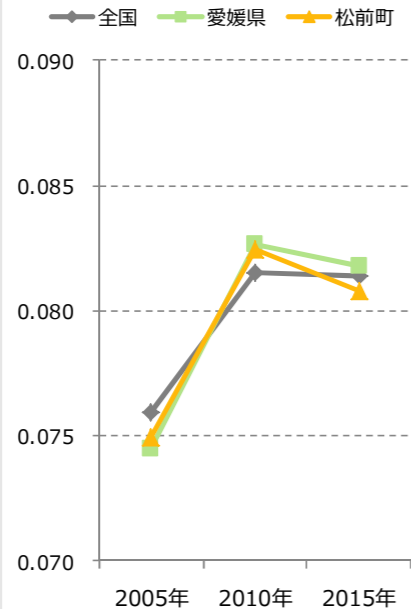
■社会増減推移



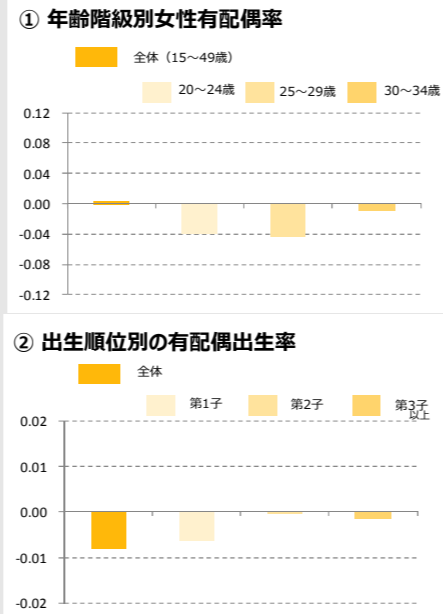
1. 合計特殊出生率の推移 (ベイズ推定値)



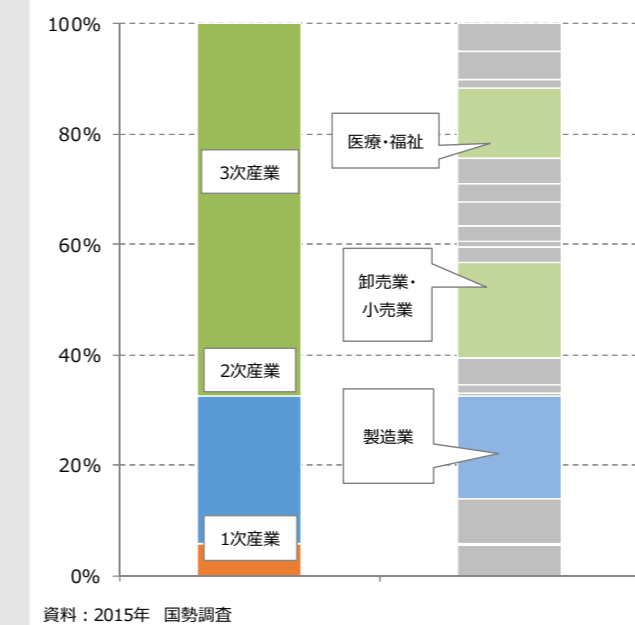
2. 有配偶出生率の推移 (ベイズ推定値)



3. 愛媛県との差



■産業別従事者



■子ども・子育て支援事業計画

●● 基本理念 ●●

子どもと家庭、地域や社会が笑顔であふれるまち

- 基本目標 ●●
- 1 子どもが豊かに育ち、たくましく生きていく力を養います
 - 2 子どもの育ちとその基盤となる過程を支援します
 - 3 地域全体で子どもや子育て家庭をあたたく応援する社会を醸成します



砥部町

- 合計特殊出生率は県平均を0.28下回り、県内で最も低い。
- グラフ3「①年齢階級別女性有配偶率」をみると、20～24歳で0.051ポイント県平均を下回っているのははじめ、25～29歳、30～34歳でも総じて低くなっている。
- P.50「第1子・第2子・第3子以上の母親の平均出産年齢」をみると、第1子の平均出産年齢は中予地域で最も低い。また右ページ「年齢、男女別社会増減」をみると、30～34歳での転出が中予の他市町より多い。
- 町民の多くが町外に通勤・通学しているため、松山市やその他市町と連携した政策が欠かせない。P.50「通勤時間」は最も長い。
- なお、右ページ「社会増減推移」をみると、2016年は転入超過となっており、出生数の増加要因となるか今後の動向を見通す必要もある。

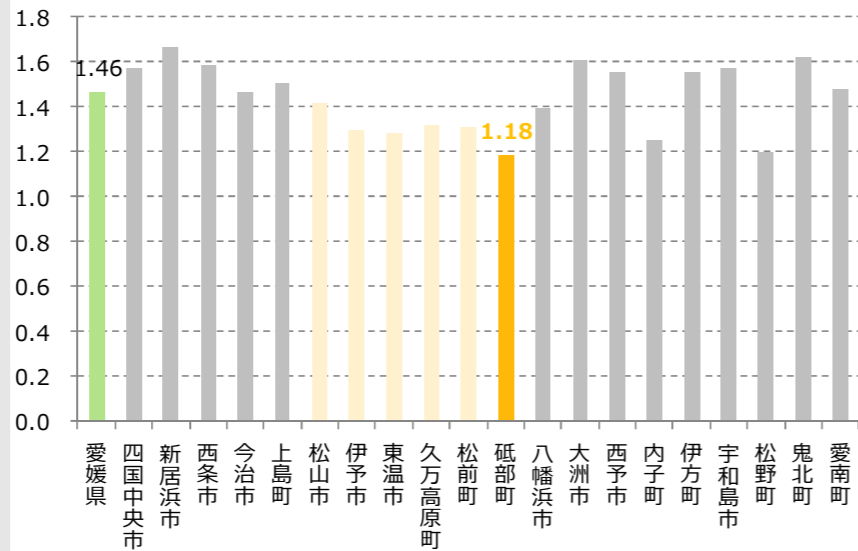
合計特殊出生率
(2012～2016年平均)

1.18

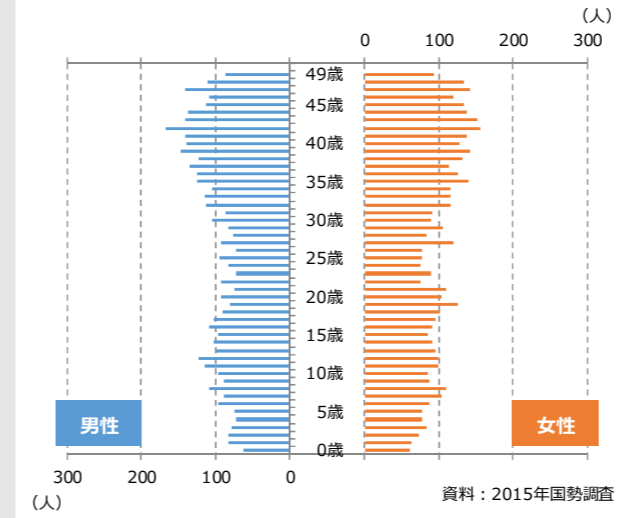
愛媛県との差 -0.28/20位

バイズ推定値

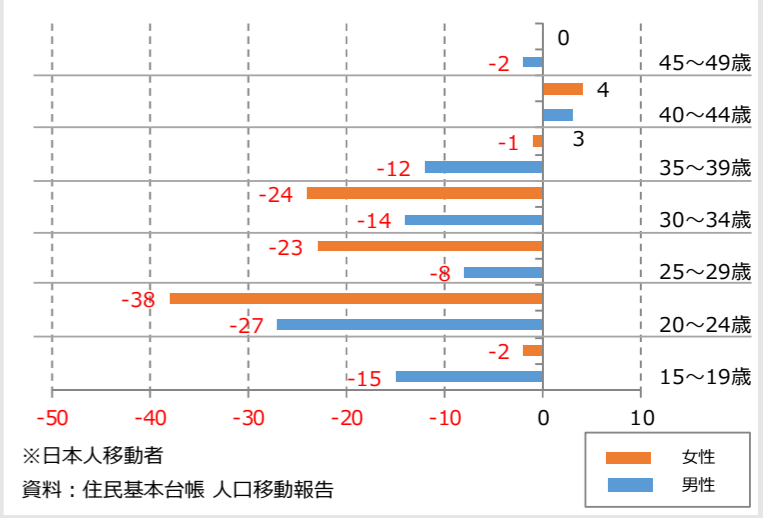
1.38



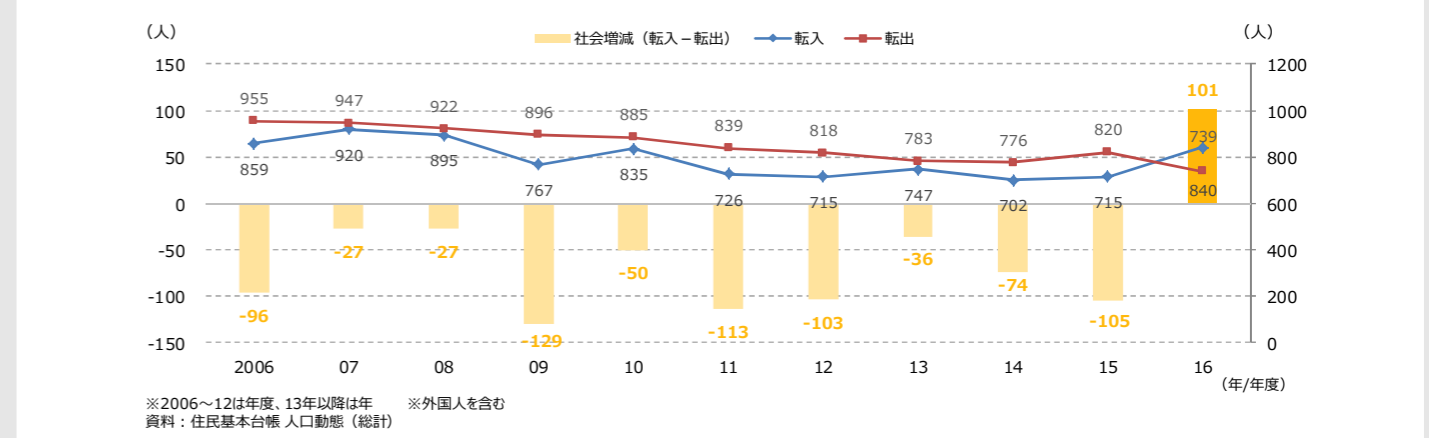
■人口



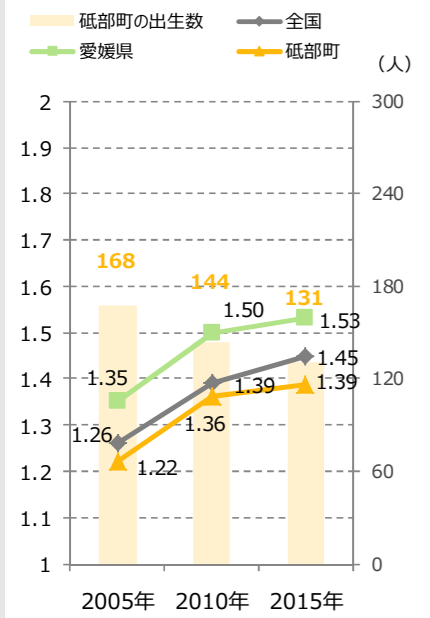
■年齢、男女別社会増減 (2017年)



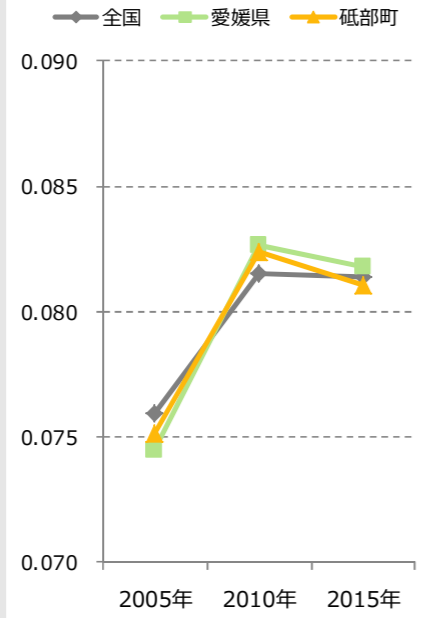
■社会増減推移



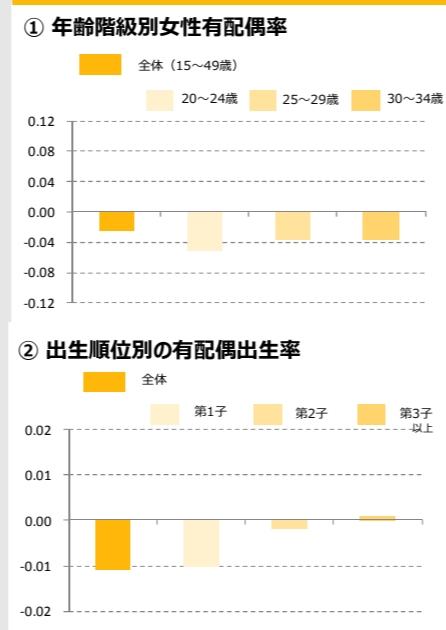
1. 合計特殊出生率の推移 (バイズ推定値)



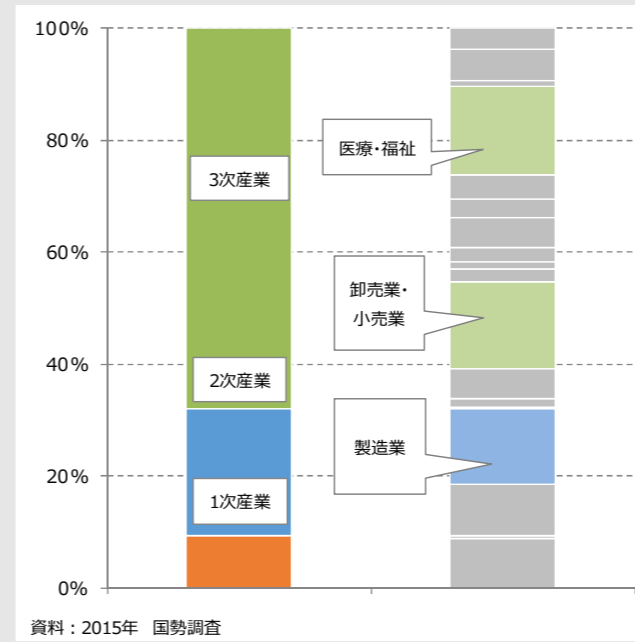
2. 有配偶出生率の推移 (バイズ推定値)



3. 愛媛県との差



■産業別従事者



■コラム

子育て世代のモデルタウンへ

砥部町には近隣市町への通勤者が多いことから、ファミリーサポートセンターの利用助成を通して、住民同士が支えあう子育て環境づくりに取り組んでいる。また、えひめこどもの城やとべ動物園、総合運動公園など家族で楽しめる施設も充実。

平成31年4月には、総合福祉センター（仮称）に麻生児童館を移転させ、みんなの児童館として多世代の交流も強化する。子育て関連のNPO法人とも協力しながら子育て世代のモデルタウンを目指し、結婚や出産・子育てを全面的に応援している。

出生記念品として砥部焼の器が陶芸体験チケットを贈呈